

# 総合的な学習の時間 学習指導案

広島市立〇〇小学校  
指導者 〇〇 〇〇

- 1 日時 令和7年12月〇日(〇) 第〇校時
- 2 学年 第6学年〇組
- 3 単元名 「スポーツと食でつなげる輪」【地域の魅力】
- 4 単元について

## 目標

地域の魅力を生み出し、発信する活動を通して、地域の魅力とは、そこに关わる人の思いや文化によってつくられていて、それを発信することで、人と人、地域と人がつながることを理解し、地域の将来を見据え、地域の魅力発信に向けて自分にできることを考え、地域の一員として課題解決に積極的に関わろうとしている。

## 目指す子供の姿

- 地域の魅力とは、そこに关わる人の思いや文化によってつくられていて、それを発信することは、人と人、地域と人をつなぐ力になることを理解し、地域の魅力の調査やイベントの開催を通して、自らの学びや発信が地域の魅力の発見や持続につながることに気付いている。
- 地域の魅力を生み出していくために、必要な情報を収集し、根拠に基づいて整理・分析し、課題を解決する方法を考え、それを効果的に発信している。
- 自分が地域の主体として、地域の将来を見据え、地域の魅力発信に向けて自分にできることを考え、課題解決に積極的に関わろうとしている。

## 現在の子供の姿

本学級の児童は、昨年度の総合的な学習の時間では、「スポーツで地域を笑顔に」というテーマで地域の人を学校に招き、スポーツ大会を実施した経験を通して、地域の人々とふれあいながら、スポーツの楽しさやつながりの大切さを体感することができた。

4月の段階では、授業や行事に対して前向きに取り組む児童が多いが、自分の意見を深めたり、発信したりする機会が少なく、周囲に合わせる傾向が見られた。課題を発見して解決したり、自分の考えを表現したりする経験が十分ではなかったためであると考えている。しかし、昨年度の6年生が「地域の食」をテーマに地域活性化を目指して取り組んでいた姿を見てきたこともあり、これまで自分たちが「スポーツで地域を盛り上げてきた経験」を生かしながら、「地域の食」を切り口とした地域活性化にも挑戦したいという思いが芽生えていた。

6月には似島へ校外学習に出かけ、似島では地域の魅力や特産品を生かして地域を盛り上げるための取組が数多く行われていることを知った。児童は、地域の魅力や人々の努力に触れることで、地域と関わることの意義や楽しさを実感し、より主体的に地域の魅力発信に関わろうとする意欲を高めていた。

小単元2では、10月に地域が主催する「孫子老まつり」にブースを出展させてもらい、地域のお好み焼き店と似島の牡蠣をコラボレーションさせたメニューを販売した。また、地域のケーキ屋や地域企業「福々庵」とコラボし、その店舗の商品を販売した。孫子老まつりへの参加を通して、課題解決の過程の中で自分たちのアイデアが形となり、企画・運営していくやりがいも感じ始めていた。

児童アンケート(4月)では、「自分が住む地域の課題を解決していきたいと思うか」という質問に63.6%の児童が肯定的に答えていたが、11月に実施した際には84.8%の児童が肯定的な回答となった。数値からも、児童が自分たちの力で地域の課題解決に関わりたいという意欲が高まっていることが読み取れる。また、ICTを用いた情報活用能力が高く、タブレットを学習に有効活用することができ、自分の考えを文章や図、プレゼンテーションで表現したり、話し合いの中で他者と意見を交わす中で考えを深めたりする力も育ってきている。

現在は、これまでに学んだ「スポーツを通じたつながり」「地域を活性化させる食」に注目しながら〇〇の魅力を生み出し、発信することで、〇〇という地域の良さをより広く、長く知ってもらうことに向けて、提案や活動に取り組もうとしている。

以上の実態から、本単元では特に「課題発見・解決能力」の育成を重点として位置づける。地域の魅力を探究する過程で、児童が自ら問いを立て、根拠を基に考え、地域と協働しながら解決に向かう姿を育むことで、社会の一員として地域の未来に参画しようとする態度の育成につながることを期待される。

## 単元の価値

〇〇の町には、昭和の名残を感じさせる常連で賑わう店舗や、新しくできた店舗、閉店したシャッター街など、歴史と現状が交錯している。特に、町内に多く点在するお好み焼き店は、世代を超えて愛される昔ながらの雰囲気や味わいが魅力であり、地域の貴重な資源といえる。

地域の身近な「食」をテーマにすることで、地域に根付いた歴史や人々のつながりを学び、身近なデータや情報を整理・分析したり、インタビューを行ったりしながら、地域の魅力を生み出す経験を通して、地域課題に貢献する力を育むことができる。また、同市内には「食」をきっかけに地域を盛り上げようと様々な取り組みをしているロールモデルが存在しており、実際に足を運びながら体験活動を積む中で、課題解決に向けて主体的に取り組む態度を育てることができる。

さらに、本校がこれまで力を入れてきた地域とのつながりを生かし、地域の店舗や企業との連携を図っておくことで、子どもたちが自らアポイントメントを取り、インタビューや提案を行うことができる環境が整っている。このような環境のもとで学習を進めることで、必然的に第三者へ目的や趣旨を説明する場面が多くなり、子どもたちは自分の考えを的確に伝える力や、相手の立場を考慮しながら対話を進める力を養うことができる。また、実際の社会との関わりの中で、自分たちの活動が誰かの役に立つという実感を得ることができ、学習の意義や達成感を味わうことにもつながる。

多くの実体験を通して、児童は「地域の一員としての自覚」や「社会に参画する意識」を高め、将来的に地域を支える人材としての基盤を築いていくことが期待される。さらに、地域の魅力を発見し、発信する活動を通じて、地域活性化に貢献するだけでなく、探究のプロセスの中で課題発見・解決能力を高めることにもつながる。

今後は、地域の人々との継続的な関わりを大切にしながら、児童が主体的に学びを深めていけるような学習環境を整え、探究的な学びを支える指導の工夫が求められる。

## 働きかけ・環境設定

本単元の導入では、昨年度の6年生の取組を参考に、地域のお好み焼きと出合わせ、「食の良さ」に触れることからスタートした。実際に地域のお好み焼き屋に足を運び、店舗ごとのこだわりや商売に対する思いを肌で感じたり、目の前で焼かれたお好み焼きをみんなで食べたりする活動を設定することで、この地域には、「お好み焼き」という「食」が根づいているという実感をもたせることで、自然な流れで「地域の食」で地域を動かすという課題設定へとつながった。

また、南区似島が「広島市地域活性化ビジョン」の取組で多くの食を活かした地域活性化に力を入れていることを財とし、インターネット検索だけでは感じ取れない実態や人々の思いに触れるため、実際に似島を訪問した。地域住民や似島小学校との交流の場を設定することで、「観光客が多いこと」「特産品が多いこと」といった似島の強みを体感させ、自分の地域とのギャップから「〇〇には何も誇れるものがないのか」という問いを抱かせ、課題を自分事として捉えるきっかけとした。

さらに、昨年度の6年生が地域の「孫子老まつり」でブースを出展していたことを知っている児童から、自分たちも参加したいという声が上がったことを生かし、地域の店舗とのコラボレーションや、これまでの学習の発表につながる場を設定した。こうした実践の場を設けることで、児童が自ら考えたアイデアを形にするプロセスを経験でき、課題解決の学びがより確かなものになった。

本単元では、地域の人や店舗、企業とのつながりが学びを深める重要な要素であることから、学校に招くだけでなく、放課後でも児童がいつでも訪問できる体制を整えるようにした。この環境によって、児童が必要に応じて自分でアポイントメントを取り、情報収集や相談、提案などを行えるようにし、実践的な学びの機会を保障した。また、第三者に目的や趣旨を説明する場面が増えることで、自分の考えを的確に伝える力や、相手意識をもって対話を進める経験を積ませる工夫をした。

こうした働きかけや学習環境の工夫により、児童が地域との関わりを通して実践的に学びを深めることができ、課題発見・解決のプロセスを自ら進めていく力を育てることを目指す。

## つながる学び

校内研究「STEAM教育（Science, Technology, Engineering, Arts, Mathematics）との関連

### ○Science（科学）

オリジナル商品をつくる過程では、食材の性質や調理による変化、組み合わせによる味や食感の違いなどを科学的に確かめながら、地域の食の可能性を探ろうとする姿を育む。

### ○Technology（技術）

タブレットを活用した情報収集やデータ整理、プレゼンテーションの作成など、ICTを活用して情報を効果的に扱う力を育てる。地域の店舗や企業との交流においても、適切な媒体を用いて自分たちの考えを発信するなど、技術を活用した表現の場面を位置付ける。

### ○Engineering（工学的思考）

地域の「食」を通じた課題解決の過程で、「課題を見いだす→原因を捉える→解決策を考える→実践する」という一連のプロセスを踏んで探究する活動を重視する。孫子老まつりでの企画・運営など、試行錯誤しながらよりよい形をつくり出す工夫をする力を育てる。

### ○Arts（芸術）

オリジナル商品のデザイン、パッケージ、ネーミング、ポスター、動画編集などを行い、地域の美しさや雰囲気（夕日、色、川・海の景観、人の温かさ）を創造的に表現する力を育てる。

### ○Mathematics（数学）

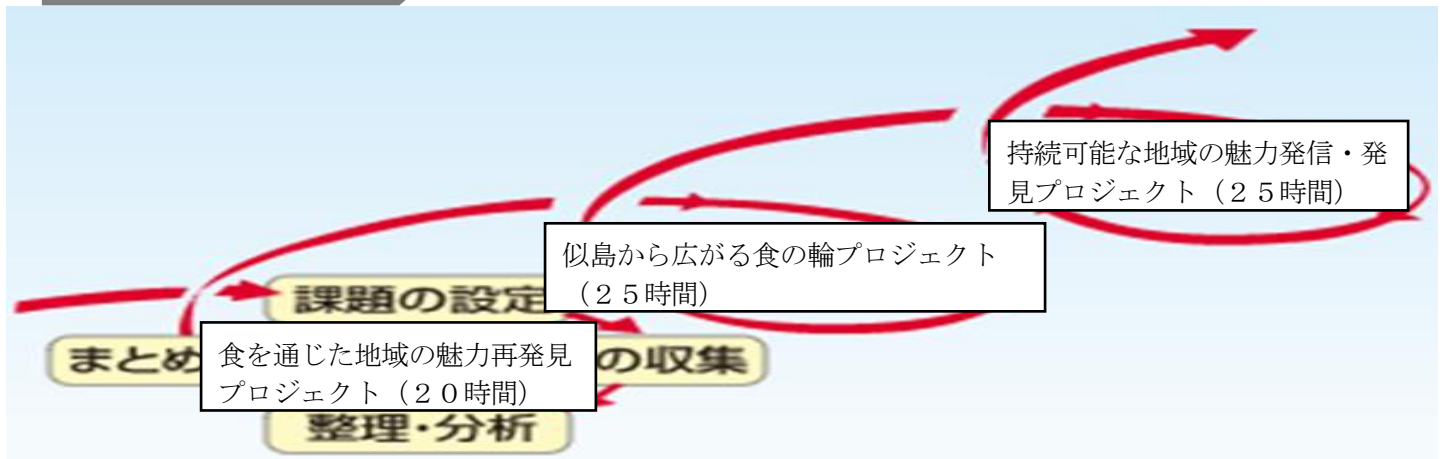
アンケート結果の集計やグラフ化、販売数量や原価、必要材料の量など、数量的な情報を根拠として判断する力を育てる。

## 5 単元の評価規準

知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
<p>○ 地域の魅力とは、そこに关わる人の思いや文化によってつくられていて、それを発信することは、人と人、地域と人をつなぐ力になることを理解し、地域の魅力の調査やイベントの開催を通して、自らの学びや発信が地域の魅力の発見や持続につながることに気付いている。</p>	<p>○ 地域の魅力を生み出していくために、必要な情報を収集し、根拠に基づいて整理・分析し、課題を解決する方法を考え、それを効果的に発信している。</p>	<p>○ 自分が地域の主体として、地域の将来を見据え、地域の魅力発信に向けて自分にできることを考え、課題解決に積極的に関わろうとしている。</p>
<p>① 地域の魅力とは、地域に関わる人の思いや文化によってつくられていて、その思いや歴史を発信することは、人と人、地域と人をつなぐ力になることを理解している。</p> <p>② 目的や対象に応じて、インタビューやアンケートなどの調査活動を実施している。</p> <p>③ 自分が地域の一員であり、地域をよりよくしていく一人であるという理解は、地域の課題を自ら発見し、探究的に学んだことによる成果であることに気付いている。</p>	<p>① 地域の人々の思いを踏まえて課題を設定し、解決方法や手順を考え、見通しをもって追究することができる。</p> <p>② 課題解決に向けた現状把握のため、目的に応じての調査や地域住民へのインタビューや他地域の取組など、必要な情報を意図的に集めている。</p> <p>③ 目的に合わせて、比較、分類、関連付け、情報を整理したり、課題に沿って判断するために必要なことを焦点化したり、捉え直したりすることができる。</p> <p>④ 自分の意見や立場を、根拠を明確にしながら、ICT 端末の描画ソフトやプレゼンテーションソフトを活用し、相手や目的に合った効果的な方法で伝えることができる。</p>	<p>① 課題意識をもって、自分なりの方法を工夫したり、他者と協働したりしながら探究活動に進んで取り組もうとする。</p> <p>② 探究活動を通して、自分の生活を見直し、自分の特徴を理解しようとするとともに、異なる意見や他者の考えを受け入れ尊重しようとする。</p> <p>③ 地域の将来を見据え、地域の魅力発信に向けて自分にできることを考え、社会の一員として、地域の取組や課題解決に積極的に関わろうとしている。</p>
<p>出会う学びの財・環境（ひと・もの・こと）</p>		
<p style="text-align: center;">         ・地域のお好み焼き店（モミジ、寿寿、日向、石ちゃん、KAZU、チヅル）          ・ユーハイム似島歓迎交流センター ・〇〇学区孫子老のまちづくり協議会（エルモ〇〇）          ・〇〇学区の住民 ・広島市立似島小学校          ・似島の住民 ・広島県観光連盟（HIT）          ・株式会社福々庵 森本真由美様 ・パティスリーBon ・お菓子処 旭堂          ・堀口海産株式会社 ・似島地域活性化委員会       </p>		

6 指導と評価の計画 (全70時間)

探究の過程の構想



	小単元1 食を通じた地域の魅力再発見プロジェクト 【食を通じて地域を活性化できるのか?】	小単元2 似島から広がる食の輪プロジェクト 【地域の魅力発信のためにできることは?】	小単元3 持続可能な地域の魅力発信・発見プロジェクト 【地域の魅力を継続的に発信するには?】
課題の設定	昨年度の自分たちの取組や6年生の実践を確認しながら、「これから地域をさらに盛り上げるために必要なことは何か」という課題を設定する。	「食で人がつながる」ことを実感したことをふまえ、自分たちの地域でも食を通して「地域の魅力を発信するにはどうすればよいか」という課題を設定する。	地域で開催されて孫子老まつりを終えて、地域が盛り上がりを見せたのは、一時的なものであることに気付き、「〇〇の魅力を発信し続けるためにはどうすればよいか」という課題を設定する。
情報の収集	地域の「食」に着目し、お好み焼き店を訪問し、店舗ごとのこだわりや思いを聞き取ったり、食を通じて町おこしをしている似島に行ったりして、地域の食にどのような可能性があるのかについて調査する。	地域の店舗や地域住民にアンケート調査を行い、〇〇の食文化や魅力に関する意識やニーズを把握する。また、地域の店舗の工夫や思いに触れることで、魅力発信の可能性を探る。	他地域や他県の魅力発信活動の情報を集め、〇〇ブランドを生み出すために必要な情報を集める。
整理・分析	校外学習での交流や体験を通して得た情報を基に、観光客の増加や特産品の活用などの取組を整理・比較する。	「〇〇オリジナル」をテーマに、地域の店舗とのコラボレーションやブース企画がどのような効果をもたらすかを考察する。	収集した情報をもとに、「〇〇らしさ」とは何かを多面的に捉え、その魅力を継続的に発信していくために必要な条件を考える。
まとめ・表現	地域の「魅力」には、地域の人の思い、店舗の歴史、受け継がれてきた味や文化といった地域のアイデンティティが詰まっていることをまとめ、次の課題の視点につなげる。	孫子老まつりに向けて、地域の食を生かしたブース運営(動画制作、チラシ配布、お好み焼きの販売、チュロスの販売など)を行い、地域の魅力をどのように伝えられるかを実践する。	自分たちが考案したメニューや発信の手段を、地元の店舗や企業に「伝わる」形で提案し、協働しながら地域の魅力を発信する活動へとつなげる。




※黒枠：本時

黄色：単元の山場

## 7 本時の目標

地域の人々から聞き取った情報をもとに、〇〇らしさとは何かを分析し、今後の商品開発に必要な条件を考  
えることができる。【思考・判断・表現③】

## 8 本時の学習展開

学習活動	働きかけ（目指す子供の姿のために）
<p>1 自分たちがこれから提案しようとしていることの確認を行う。</p>	<p>○ まだ大まかな提案となっている現状を踏まえ、これからの学習では「より具体的な提案にしてい く必要があること」を児童と共に確認する。</p>
<p>地域の人々の思いを手がかりに、「〇〇らしさ」を分析し、自 分たちの提案に生かす視点を見つけよう。</p>	
<p>2 地域住民から聞き取った、「〇〇らしさ」を全体 で共有する。</p> <p> 吉島は昔、ハスの栽培が盛んで、 穴が9つの吉島レンコンが有名だ った。今はないけど、知らない人 は多いかも知れない。復活できな いかな。</p> <p>5年生が学習して いる川や海も〇〇 らしさだと思うか ら、それを大切に していけることも 考えたいな。</p> <p>お好み焼き店でできる人 のつながりは、地域全体 にもできていると思う。 つながりが吉島らしさな のではないかな。</p>	<p>○ 地域住民へのインタビューから得られた「〇〇 らしさ」が多様に存在することを改めて共有し、 各グループの目的に応じて、どの「〇〇らしさ」 を重視するのかを話し合えるよう声掛けを行う。</p> <p>○ 思考ツールを提示し、各グループが積極的に 整理分析を行えるようにする。</p>
<p>3 思考ツールを活用して、自分たちグループに適切 な「〇〇らしさ」が何なのかを分析し、条件（何を大 切にするか）を考える。 （福々庵の溶けない不思議アイス为例に）</p> <p> 川が流れているのが〇〇らしさだ と言っている人がいたよ。なんか川や 海の流れを使えないかな。</p> <p>しかもお店の前って海の景色がすごく きれいに見えるよね。景色を楽しみ ながら食べるっていうのも、〇〇らし さだと思う。</p>	<p>○ グループで話し合いが進む中で、実現が難しい アイデアが出た場合には、教師が「現実的に実行 可能か」を助言し、子どもたちだけでは判断でき ない部分は、「店舗の方の意見が必要である」と 気付けるように働きかける。 → 次時の「ゲストティーチャーとのオンライン 意見交換会」につなげ、実際の社会との対話の中 で提案をより確かなものにしていく。</p>
<p>たしかに。地域の人が海に沈む夕日がきれい に見えるから、地域の人が〇〇のイメージがオレ ンジだと言っている人も多かったよ。</p>	<p>○ いくつかのグループに途中経過を全体共有して もらい、他のグループは他者の考えを参照しなが ら比較・検討し、自分たちの考えをさらに深めら れるようにする。</p>
<p>じゃあ、アイスの色を夕日のオ レンジにするとか、パッケージ に川や海の流れをイメージした デザインを入れるとか。</p> <p></p>	
<p>たしかに、見た目から〇〇らしさを伝え るのはいいね！商品名も、海や川と夕陽 が関係したらいいね。</p>	<p>○具体的に決めるところまでいかななくてもよい が、何を大切にするかという条件を出し合うよう にしたい。</p>

4 各グループが適切だと考えた「〇〇らしさ」を全体で共有する。



旭堂（本店）の和菓子のグループは、「吉」という漢字と、幸せな島をイメージした形を考えるといいかなと考えました。地域の人が大人数になっても、地元に戻ることが多いことから、いい町というイメージを伝えようと考えました。

お好み焼きのグループは、吉島レンコンを思い出すため、吉島レンコンを入れるのと、みんなのつながりをイメージしてネギを丸にするのはどうかという話になりました。

アイスグループは、海に夕日が沈む景色が〇〇らしい景色ということで、オレンジの色や波の模様などもつけたデザインはどうか考えています。

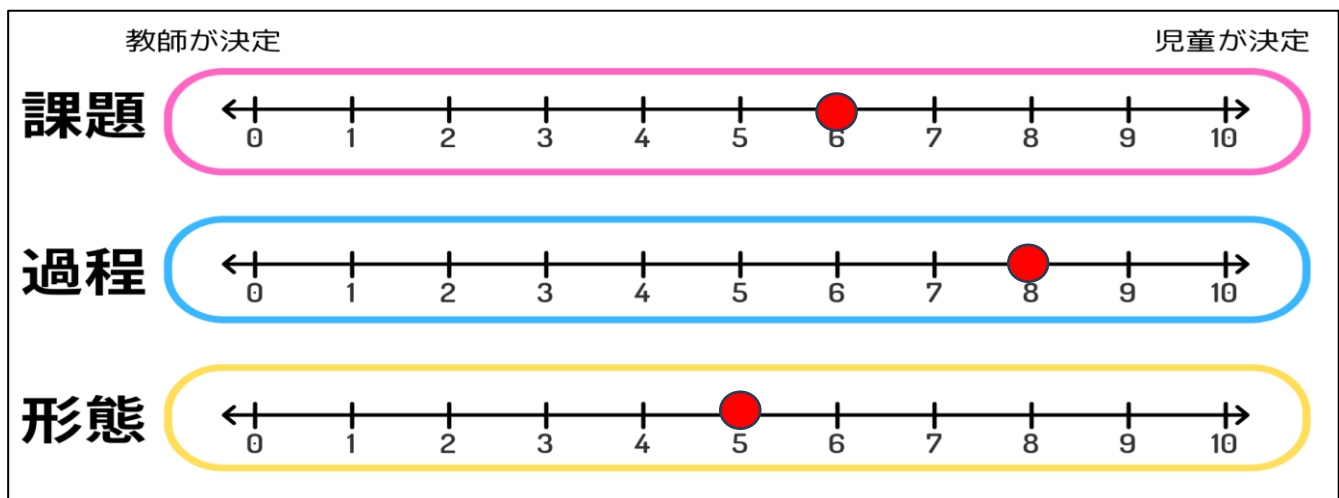
5 振り返りを書く。

今日の学習では、地域の人から聞いた話や思いを手がかりに、「〇〇らしさ」が何なのかをグループで話し合いました。初めは意見が多くまとまらず難しさもありましたが、聞き取った内容を比べたり共通点を探したりする中で、自分たちの提案に生かせそうな特徴が少しずつ見えてきました。例えば、夕日のオレンジ色や川・海の風景、人のあたたかさ、お店のこだわりなど、〇〇だからこそ大切にしたいイメージがあることに気付くことができました。

## 9 本時の評価規準と目指す子供の姿

本時の評価規準	目指す子供の姿
<p>地域の人々から聞き取った情報をもとに、〇〇らしさとは何かを分析し、今後の商品開発に必要な条件を考えている。【思考・判断・表現③】</p>	<p>地域の人々の思いやアンケート、自分たちの体験を根拠として「〇〇らしさ」を整理・分析し、具体的な形にしようとしている。                      (福々庵の溶けない不思議アイス为例に)                      A評価：B評価に加え、多様な根拠(アンケート・体験・店舗の実態・地域の声)を関連づけて分析でき、「〇〇らしさ」を誰に何をどう伝えるかまで見通しをもつことができている。                      →思考ツールで整理すると、〇〇の魅力は夕日のオレンジ色、川や海の風景、人のあたたかさ、お店のこだわりなどがあるとわかった。アンケートでも夕日を好きと言っている人が多かったので、商品名を「吉島の海」にして、水色のソーダの中にオレンジ色の丸いアイスを入れ、海に沈む夕日をイメージできるようにするとよいと考えた。地域の人やお店の人にも意見を聞きながら、より伝わる形にしていきたい。                      B評価：アンケートや体験などの根拠をもとに、グループで「〇〇らしさ」を整理・分析している。                      →思考ツールを使って整理すると、〇〇の魅力は夕日の色や川・海の風景、人のあたたかさなどであるとわかり、名前や色、味などにその魅力を込められそうだとわかった。                      C評価：「〇〇らしさ」について主観的な感想にとどまっている。                      →川や夕日のことなど、いろいろ意見を出すことができた。</p>

## 10 教師の介入レベル



※学習課題、学習過程、学習形態について教師が子どもにどのくらい委ねるかを数値化しています。

計画と実際を比べてどうだったか。また、どのくらい介入するべきか。など、参観する際の指標にするために記載しています。

### 11 本時の見どころ

- 地域の人々から集めた多様な意見や思いを、児童がグループでの話し合いを通して、そこから見える共通点や特徴を見出して、地域らしさを具体的な形にまとめようとしていく過程。
- 自分たちだけでは情報が不十分であることに気づき、次時以降の学習(ゲストティーチャーとの意見交換)へ学びをつなげようとする姿。  
 実際に商品化や提案につなげるためには、店舗や企業の専門的な視点が必要であることに気づき、学習の方向性を見通そうとする態度を見取りたい。
- 目的に応じた思考ツール(同心円チャート)の活用。

多様な情報を整理・分析するために、自分たちの課題に合った思考ツールを選んで使い、論点を整理していく姿を評価する。

## 1 1 板書計画

